

# 公益財団法人第五福竜丸平和協会

## 平成31年度(2019年)事業計画

第五福竜丸展示館は、開館から43年、船歴は72年となる。また本年はビキニ水爆実験から65年目にあたり、メモリアルイヤーを意識した広報や企画に取り組む。公益財団法人第五福竜丸平和協会は、定款にうたう貴重な木造船・第五福竜丸の現物をとおして伝える事業を中心に、原水爆の惨禍を再び繰り返させないとの願いで保存展示が実現したことを踏まえた事業を広く都民・市民にむけてすすめる。

本年度は、昨年7月から去る3月までの、展示館建物大規模改修工事による長期休館から9カ月ぶりにリニューアル開館し、改めて第五福竜丸からの発信の事業に力をそそぎ、来館者への対応をすすめ、展示館の利用の拡大をはかる。リニュー

リニューアルにむけて常設展示の一部刷新、企画展、各種イベントをつうじて、第五福竜丸と核問題への理解、教育的活動にとりくむなど、公益事業をすすめる。

夢の島公園がオリンピック・パラリンピック競技会場となることなども視野に入れた広報、平和遺産、産業遺産としての第五福竜丸の存在とその意義を広く伝える。

### 公益法人のかなめの事業としての展示館業務

- ・平成31年度は開館309日（平日239日、日祝日70日、休館日57日）となる。
- ・昨年は春の修学旅行・学校見学シーズンは通常どおり運営したものの、秋のシーズンは休館したため、今期の利用校の減少が見込まれる。展示館の存在・利用に関する広報・宣伝活動に取り組む。これまで展示館を訪れたことがない学校をはじめ、DMやインターネットなどの活用をはかり情報発信する。
- ・カラー版「展示館しおり」を広報宣伝に活用する。
- ・リニューアル・オープンにより、第五福竜丸の被災に関する常設展示（船左舷の前半部分）を更新したこと、映像展示3点を製作し常設展示に加えたことなどを広報する。

### 企画展【展示替え】等の取り組み

都との契約にもとづく展示替え（企画展等の開催）をすすめる。本年度最初の春の企画展示は、かつてない規模で実施された展示館建物の改修工事をテーマに開催する。シェル構造という二枚貝を立てかけたような曲線からなる特異な構造物の改修工事の構想・理念（設計）、建築技術上の工夫などを工事の経過の映像や解説、屋根や床、壁の断熱構造などの「実物の切り取り展示」などをつうじて、〈船を守るための建物の改修〉の概況を伝える（企画名「福竜丸を支えるプロの〈わざ〉、展示館の大規模改修をたどる」を開催する（4月下旬～6月中旬）。

また、リニューアル・オープンを記念し、所蔵のベン・シャーンの絵画作品をつうじて、第五福竜丸の漁師の被災をたどる企画展「ベン・シャーンで見る第五福竜丸のものがたり」（6月～9月）。

秋の企画展は、ビキニ水爆実験被災65年にあたり水爆実験被害の広がりや影響を伝える企画

として、高知の漁民等の証言とポートレートで構成された企画展をおこなう（10月～2月）。関連イベントとして、「子どものための音楽朗読劇 くじらのこえ なみのこえ」の上演や「アート・イベント」を検討する。

#### 第五福竜丸・ビキニ事件、世界の核被害を伝える取り組み

- ・去る3月2日の3・1ビキニ記念の行事で上映された映画「西から昇った太陽」（キース・レイミング監督作品）の各地での上映活動をよびかける。映画の上映とともにビキニ事件・第五福竜丸の被ばく、広島・長崎後の核開発などへの学習へのサポートをすすめる。
- ・「第五福竜丸展示パネル」、豊崎博光氏寄贈の「世界の核被害」パネルの活用などをすすめる。各地での学習会や講演会等の開催をよびかけ、講師等の派遣、出前授業などをおこなう。

#### 船体・エンジン等の保存のための検討作業

- ・船体等保存検討委員会を開き、第二回の3D測定の実施（7月予定）と船体、エンジンの現況と今後についての検討作業をすすめる。

#### 出版事業ほか

- ・「福竜丸だより」は展示館と賛助者、市民と第五福竜丸・財団の諸事業をつなぐメディアであり、隔月の発行をすすめる。「たより」の別冊として展示館と協会の年次報告を作成し配布する。
- ・福竜丸だよりへの連載「雨の日も晴れの日も」（顧問・山村茂雄氏執筆）を収録する出版に協力する。フォト・ジャーナリスト島田興生氏の連載「語り継ぐビキニ～マーシャルの人びととの40年」終了にともない、同連載のブックレット化、刊行をすすめる。
- ・「福竜丸だより」を広く知らせるウェブサイト公開をすすめる。
- ・展示館活動の充実をはかる一環として、ボランティアの会の活動をすすめる。

以上